

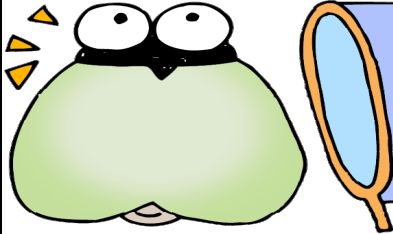
大謝名小のスタ場!!!

2022, 12, 12(月)

第43号

宜野湾市立
大謝名小学校
校内新聞

「スタ場」とは、「スタートの場」「スタディの場」「スターの場」を表しています。



3ページあります 沖縄の自然にふれよう

修学旅行「自然観察のしおり」より

11月の6年生修学旅行のしおりから沖縄の自然について紹介します。冬休みなどに家族で出かけたときに見られるものもあるかもしれませんね。

数多くの島々からなる琉球列島（りゅうきゅうれっとう）は、大むかしには、何度か大陸と陸続きだったといわれ、その時渡ってきた大陸の動植物が、島ごとに形や色を少しずつ変化させながら生き残っているものが多いです。

植物だけでも2000種あまりありますし、動物も多くの種がいます。「豊かな自然」とは、その土地の気候や地質などの環境に合った生き物の種類が多く、バランスのとれた自然です（外来生物は除く）。

特に北部地域には、ドングリのなるイタジイやマテバシイをはじめ、たくさんの動植物が見られます。

また、亜熱帯海洋性気候や海流の影響もあって、南方系の動植物も多く、河口付近では、マングローブ林も見られます。

暖かく、浅い海に発達するサンゴ礁も、多くの生き物のすみかであり、天然の防波堤（ぼうはてい）の役割を果たしています。サンゴ礁が隆起したところには、鍾乳洞（しょうにゅうどう）ができていているところもあります。

このように、琉球列島には、豊かで多様な自然の姿を見ることができます。しかし、陸地の面積がせまく、生態系の広がり小さいために、人間の生活や活動の影響を受けやすく、種の減少や絶滅が心配されています。



ミナミトビハゼ



ハクセンシオマネキ・右み



シリケンイモリ



ヤンバルクイナ



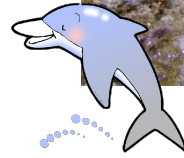
コノハチョウ



マテバシイ

<イノーの生き物たち>

沖縄の島々はその周りをエメラルドグリーンの海に囲まれています。広いところでは幅数キロメートルになるこの部分は、「イノー」と呼ばれ、水深1～3mの浅い海です。潮が引くと沖合いのサンゴ礁の部分が干上がって池のようになります。昔から人々にとってもっとも身近な海で、様々な恵みをもたらしてきました。サンゴ礁に守られた穏やかなイノーは、多種多様な生き物の宝庫です。



タイドプールのヒトデ

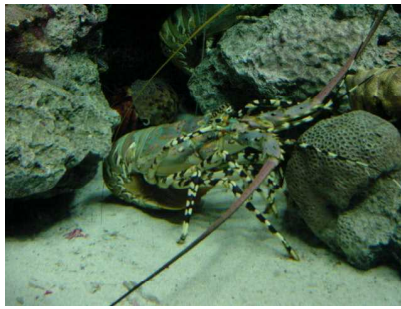
<熱帯魚の海>

サンゴ礁の外側には大小様々、色とりどりの熱帯魚が生息しています。魚たちは太陽の光を体いっぱい浴び、美しい色合いで海を泳ぎ回っています。

全長5cmぐらいのスズメダイの仲間は群れをつくって泳ぎ、危険を感じるとサンゴの枝のすきまに逃げ込みます。それをねらう中型のフエダイの仲間、そしてそれを食べる大型のハタやサメの仲間もみな一緒に住んでいます。



メガネモチノウオ



ニシキエビ(イセエビの仲間)



クマノミの幼魚(下関海響館)



ジンベエザメ

くる卵胎生(らんたいせい)の魚です。

ジンベエザメは、魚類の仲間では、最も大きくなります。成長すると最大10～12mにもなるようです。青紫色の体に、たくさんの白いはん点やしまがあるようですが、「甚平(じんべえ)」の模様に似ているのでこの名がつけられました。おとなしいサメで、ダイバーが近づいても逃げたり、おそったりしません。自然の海では、主に動物プランクトンを食べて生きています。体内でふ化し、子ザメで生まれて

<ネオパーク・オキナワで見られる動物たち>

ネオパーク・オキナワは、人と動物の共存をめざして、**Nature**（自然）、**Environment**（環境）、**Oasis**（オアシス）の頭文字から、NEOと名付けたそうです。園内は、アフリカ「フラミンゴの湖」、南米「アマゾンのジャングル」、オーストラリア「オセアニアの花鳥」の3つのゾーンにたくさんの動植物が生息しています。



アフリカトキコウ



ダチョウとアフリカハゲコウ



ホオジロカンムリヅル



カピバラ



フラミンゴ



オオサイチョウ



レッサーパンダ



ペリカン



アルダブラゾウガメ

(文責・写真：玉村かおり)